人間科学セミナー

学生さんおすすめ！
ご研究をのぞいてみませんか

7/25(木) 13:30～

場所：大阪大学大学院人間科学研究科
北館2F ラーニングコモンズ

参加自由・申し込み不要

13:30 - 14:00

共生学系　坂口真康 先生

グローバル化時代の「共生社会」と教育について考える
ー南アフリカ共和国からの学びー

14:00 - 14:30

教育学系　知念渉 先生

都市で育つ／育てる
ー「大企業型」「地元型」「残余型」という分類を手がかりにー

14:30 - 15:00

社会学系　三谷はるよ 先生

子ども期の逆境体験（ACE）の長期的影響と保護要因

大阪大学大学院人間科学研究科
附属 未来共創センター
mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

坂口真康 先生（共生学系）

グローバル化時代の「共生社会」と教育について考える
ー南アフリカ共和国からの学びー

本講演では、講演者の現在までの研究内容を紹介させていただきながら、参加者の皆様と一緒にグローバル化時代の「共生社会」と教育（特に学校教育）について考えたいと思います。講演の中では、南アフリカ共和国の事例に焦点をあて、同国における具体的な取り組みから学び得る点を提示いたします。

グローバル化の進行等により一社会内の人々の文化的背景が一層多様化／複雑化する中で、他者との「共生」に関する研究や実践が様々な方面で展開されてきました。そのような中、特に次世代を担う人々を対象とする学校教育における議論や試みが盛んに行われてきました。本講演では、学校教育を通じてグローバル化時代の「共生社会」を思考し、試行する際に見極める必要があると考えられる諸観点を整理したいと思います。その際、制度としてのアパルトヘイト（人種隔離政策）が撤廃された後の南アフリカ共和国に着目し、同国の具体的事例をもとにして議論を進めます。

知念渉 先生（教育学系）

都市で育つ／育てる
ー「大企業型」「地元型」「残余型」という分類を手がかりにー

社会的な不平等はどのように再生産されるのか。この問題について報告者は、いくつかの社会調査を通じてアプローチしてきました。本報告では、共同研究として行った母親と高校生への質問紙調査とインタビューから得られたデータを用いて、育つ／育てるという経験を社会階級という観点から分析します。

これまでの研究では、親の学歴や社会経済的背景（Social Economic Status）という尺度で教育格差を捉えてきました。それに対して本報告では、P. ブルデューの階級分析と小熊英二の『日本社会のしくみ』を参考にして、多重対応分析によって親子を「大企業型」、「地元型」、「残余型」に分類します。その分類を用いることで、日本の社会的再生産のあり方に新しい論点を持ち込むとともに、質問紙調査とインタビュー調査の組み合わせ方などについても提案してみたいと思います。

三谷はるよ 先生（社会学系）

子ども期の逆境体験（ACE）の長期的影響と保護要因

子ども期の逆境体験（Adverse Childhood Experience: ACE）とは、18歳になるまでに主に家庭内で経験された虐待・ネグレクトの被害、および養育機能の不全状態（家族の依存症、精神疾患、DVへの曝露等）を指す用語です。アメリカで1990年代に始まったACE研究は、いまや国際的・学際的な広がりを見せています。発表者のこれまでの調査研究によれば、日本でもこれらの逆境体験が累積すると、その影響は成人期に至るまで及び、心身の疾病リスクを増大させるだけでなく、失業や貧困、社会的孤立や子育ての困難などの問題を抱える可能性が高まることがわかっています。しかし、ACEの悪影響を緩和し、子どもたちが健やかに人生をあゆむことを促す保護要因も存在します。今回の発表では、ACEの長期的影響の実態と、その傾向を緩和しうる保護要因、具体的な取り組み事例について議論したいと思います。